# 《歯科衛生士総合研修センター》歯科衛生士の不足に歯止めをかける復職支援と離職を防止する取り組み

**超高齢社会を迎えた今、以前にも増して口腔ケアの重要性が高まっている。一方、その担い手である歯科衛生士が不足している。東京医科歯科大学歯学部附属病院では、歯科衛生士の復職支援や離職防止の取り組みとして「歯科衛生士総合研修センター」を設立。2018年1月から研修を開始した。**

2018年1月14日に開催されたキックオフセミナーには、全国から100人以上の歯科衛生士等が参加。

近年、高齢者医療や全身の健康において、口腔機能の維持と衛生管理の重要性が増している。ところが、予防歯科と口腔ケアのスペシャリストである歯科衛生士が不足。現在、国内の歯科衛生士登録人数が約26万人であるのに対して、実際に働いているのは半分以下の12万人程度しかいないとされる。

就業していない歯科衛生士が多い理由としては、結婚や出産などのライフイベントで離職したまま復職しないケースと、若い歯科衛生士の早期離職が目立つという。歯科衛生士は専門的な技術を求められることが多いことから、離職によりブランクがあったり、経験が浅かったりする歯科衛生士が就業を続けにくい現実がある。

そうした背景を受けて、厚生労働省では「歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業」を立ち上げた。同事業の委託を受けた東京医科歯科大学歯学部附属病院は、「歯科衛生士総合研修センター」を設置。2018年1月から研修をスタートした。

「本センターでは、今後人材不足が深刻化すると見られている歯科衛生士について、若い人の離職を防ぎ、退職した人が復職できるような研修プログラムを用意しました。本学には口腔保健学科や歯学科の教員および教育プログラムや、技術トレーニングができる設備が揃っている強みがあるので、実践的な研修を行っていきます」

そう話すのは、センター長の水口俊介教授。同センターでは、主に技術修練を目的に、研修プログラムを実施する。

## 技術研修や臨床研修を通して潜在歯科衛生士の復職を促す

研修は、歯科衛生士になって3年目までの新人向けプログラムと復職支援プログラムの2種類を用意するが、一人ひとりの経験やニーズに合わせてオーダーメイドで研修プログラムを作ることができ、必要な科目数も個別に決める。

品田佳世子副センター長（教授）

水口俊介 センター長（教授）

木下淳博教授

渡邊洋子歯科衛生士



受講者は必修科目と選択科目を受講し、それぞれに座学やシミュレーション研修、臨床研修などを受ける。こうした研修プログラムについて、副センター長の品田佳世子教授は次のように説明する。

「必修科目では、歯科衛生士としての基本姿勢と感染対策・医療安全といった、技術以前の心構えが学べます。選択科目には歯科一般の技術や業務を学べるコースもありますが、近年は歯科衛生士のニーズが細分化しているので、高齢者や障害児、在宅診療、周術期管理などのコースも用意しています。歯科衛生士として働いた経験がある人でも、専門性を高めることで復職しやすくなるはずです」

基礎技術研修の一部はeラーニングでいつでも学習が可能。数百におよぶ症例について画面上でシミュレーションできるほか、手術着の着せ方や医療廃棄物の捨て方など、実践的な教材が多数揃っている。

臨床に近いところで経験を積みたい人は、ロボット（SIMROID）を使ったシミュレーション、マネキン実習、臨床研修を受講する。研修は技術力を高めることを目的としているが、一人ひとりに自信を持ってもらうことが重要だと本センターの歯科衛生士である渡邊洋子さんはいう。

「新人の離職も、復職できないことも、自分の技術に自信を持てないことが理由です。このプログラムでは、現場で十分にやっていける技術を身につけることはもちろん、いつでも相談できる体制作りも大切だと考えています。また、研修を受けた歯科衛生士同士で横の繋がりができるとさらに心強いでしょう」

## キャリア相談を実施するなど実際の復職に繋がる仕組みも検討

今年度の研修受講料は無料で、修了者には修了証を発行する。将来的にはキャリア相談を行うなど、より具体的な復職支援も検討している。

研修プログラムの前段階として2018年1月14日に開催されたキックオフセミナーには、全国から100人以上の歯科衛生士・歯科医師等が参加。歯科衛生士養成校の教員や地方自治体職員なども参加しており、関心の高さがうかがえた。

1月から3月の研修には40人以上の応募があり、すでに研修は始まっている。受講者の中には、センター発足に関する新聞記事を見たという人や、実践的な研修ができるところを探していて見つけたという新人もいた。

今後はさらにプログラムの充実を図るとともに、より多くの対象者に受講してもらうような取り組みも重要になると歯科医療情報センター長の木下淳博教授は話す。

「キックオフセミナーの参加者を見ても分かるように、歯科衛生士不足は全国規模の課題です。今回のプログラムを本学内に留めるのではなく、このような取り組みが全国に拡大されるきっかけになればと思っています」

厚生労働省受託事業としての期間が終了した後もこうした活動を継続できるよう、別の枠組みを考えていくなど、将来を見据えてプログラムを構築していく計画だ。 B

歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業の概要

歯科衛生士総合研修センターではキャリア相談なども行っている。

ロボット（SIMROID）を使ったシミュレーション研修。